

精神科薬物療法で用いる向精神薬のリスト

福田 雄一¹

A List Of Psychotropic Agents

Used In Psychiatric Pharmacotherapy

Yuichi FUKUDA¹

はじめに

こんにち、医療の世界では多種多様の薬剤が用いられている。このことは、疾患の多様さやそこから生じる人びとの苦しみの多様さを反映しており、薬物療法の発展の歴史は、疾患や苦しみとの戦いの歴史であるともいえる。精神科臨床においても、1952年にクロルプロマジンが初めての抗精神病薬として開発されて以来、多くの薬剤が向精神薬として開発され、利用されている。

薬剤の名称には一般名と商品名があり、一般名が薬剤の化学的な構造や特性、国際的な通用性の見地から命名されるのに対し、商品名は販売者ごとに異なった名称がつけられるのが普通である。多くの場合、新薬の研究・開発のコストは、その新薬に係る特許が一定期間保証されることによりまかなわれるが、特許期間が終了し、なお市場の需要があるものについては「同一成分を含む同一の剤形の製剤で、効能・効果、用法・用量が同じ医薬品」すなわち「ジェネリック医薬品」（水島，2008）が各社から発売される。ジェネリック医薬品の商品名が多様であることも、われわれ心理臨床家が薬物について学ぶことのハードルを高くしているように思われる。

そこで本稿では、現時点で流通している主な向精神薬のリストアップを行うこととする。このような取り組みはすでに山口ら（2008）や水島（2008）などが行っているが、本稿では一般名と主要な商品名、その他の商品名の対応関係を明確にすることに主眼を置いて、できる限り検索の便宜となるようにリストを構成した。それぞれの薬剤の効能や特徴など詳細は、成書にゆずることとしたい。

リストアップにあたって参照した資料は稿末に示した。また、ジェネリック医薬品として発売されているもののうち、商品名が一般名と同一のものや、商品名が「一般名＋会社名」の形式となっているものについては、掲載を省略した。

¹ 広島文教女子大学人間科学部心理学科

I 抗うつ薬 antidepressant

最初に開発された抗うつ薬は、ベンゼン環を3つ有するため「三環系」の名がつけられている。最近では、副作用の比較的少ない選択的セロトニン再取り込み阻害剤（SSRI）や選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤（SNRI）が、第一選択薬として用いられることが多くなっている。

分類	一般名	代表的な商品名	その他の商品名・備考
三環系抗うつ薬	イミプラミン imipramine	トフラニール Tofranil	イミドール Imidol
	クロミプラミン clomipramine	アナフラニール Anafranil	
	トリミプラミン trimipramine	スルモンチール Surmontil	
	アミトリプチリン amitriptyline	トリプタノール Tryptanol	アミプリン Amiplit, ノーマルン Normaln
	ノルトリプチリン nortriptyline	ノリトレン Noritren	
	ロフェプラミン lofepramine	アンプリット Amplit	
	アモキサピン amoxapine	アモキサン Amoxan	
	ドスレピン dosulepin	プロチアデン Prothiaden	
四環系抗うつ薬	マプロチリン maprotiline	ルジオミール Ludiomil	クロンモリン Cronmolin, ノイオミール Neuomil, マプロミール Mapromil
	ミアンセリン mianserin	テトラミド Tetramide	
	セチプチリン setiptiline	テシプール Tecipul	ビスプール Bisopool
SSRI	フルボキサミン fluvoxamine	デプロメール Depromel, ルボックス Luvox	強迫性障害や社会不安障害にも有効
	パロキセチン paroxetine	パキシル Paxil	
	セルトラリン sertraline	ジェイゾロフト Jzoloft	
SNRI	ミルナシبران milnacipran	トレドミン Toledomin	
その他	トラゾドン trazodone	レスリン Reslin, デジレル Desyrel	アンデブレ Undepre

II 抗不安薬 antianxiety agents (minor tranquilizer)

不安を鎮めるための抗不安薬は、ベンゾジアゼピン系の薬剤が主流を占めており、効果の持続する時間の長さや、効果を表すのに必要な量（力価 potency）によって多様に分類される。一般に力価が高い（投与量が少量ですむ）ものほど効果はシャープに現れる。同じベンゾジアゼピン系の薬剤で催眠・鎮静作用が強いものは、睡眠導入薬として用いられる（後述）。

分類	一般名	代表的な商品名	その他の商品名・備考
ベンゾジアゼピン系	(短時間型)	エチゾラム etizolam	デパス Depas アロファルム Arophalm, エチカーム Eticalm, エチセダン Etisedan, エチゾラン Etizolan, カプセーフ Capsafe, グベリース Guperies, サイラゼパム Sylazepam, セデコパン Sedekopan, デゾラム Dezolam, デムナット Demunatto, ノンネルブ Nonnerv, パルギン Palgin, メディピース Medipeace, モーズン Mozun
		クロチアゼパム clotiazepam	リーゼ Rize イソクリン Isocline, ナオリーズ Naorise, ニラタック Nilatac, リリフター Rilyfter, リルミン Rilmin
		フルタゾラム flutazolam	コレミナール Coreminal 消化器症状にも効果
	(中間型)	ロラゼパム lorazepam	アズロゲン Azrogen, ユーパン U-pan, ロコスゲン Rocosgen
		アルプラゾラム alprazolam	ソラナックス Solanax, アゾリタン Azolitan, カームダン Calmdown, メデポリン Medepolin
		フルジアゼパム fludiazepam	エリスパン Erispan
		ブロマゼパム bromazepam	レキソタン Lexotan セニラン Seniran
	(長時間型)	メキサゾラム mexazolam	メレックス Melex
		ジアゼパム diazepam	セルシン Cercine, ジアパックス Diapax, セエルカム Cellkam, セレナミン Serenamin, ソナコン Sonacon, パールキット Pealkit, リリーゼン Reliezen, リリバー Reliver
		クロキサゾラム cloxazolam	セバゾン Sepazon
		クロルジアゼポキシド chlordiazepoxide	コントロール Contol, コンスーン Consun, リサチーフ Risachief
		クロラゼパム酸二カリウム clorazepate dipotassium	メンドン Mendon
		メダゼパム medazepam	レスミット Resmit パムネース Pamnace
		オキサゾラム oxazolam	セレナール Serenal トッカータ Toccata, ネブスン Nebusn, ペルサル Pelusarl

精神科薬物療法で用いる向精神薬のリスト

(超長時間型)	ロフラゼパ酸エチル ethyl loflazepate	メイラックス Meilax	アズトレム Azutolem, ジメトックス Demethox, スカルナーゼ Sukarnase, メデタックス Medetax, ロンラックス Ronlax
	フルトプラゼパム flutoprazepam	レスタス Restas	
	プラゼパム prazepam	セダبرانコーワ Sedapran KOWA	
その他	タンドスピロン tandospirone	セディール Sediell	
	ヒドロキシジン hydroxyzine	アタラックス Atarax, アタラックス P Atarax P	ジスロン Disron, ハタナジン Hatanazin
	トフィゾパム tofisopam	グランダキシシン Grandaxin	エマンダキシシン Emandaxin, クラソパン Clasopan, グランパム Granpam, ゲースベン Gesuben, コバンダキシシン Cobandaxin, ツルベール Tsurubel, トフィール Tofiel, トフィス Tofis, トフィルシン Tofilsin, トルバナシン Tolbanasin, トロンヘイム Tronheim, バイダキシシン Bydaxin, ハイミジン Hymidin, マイロニン Myronin, リンブルグ Rinburugu 「自律神経調整薬」という位置づけ

Ⅲ 気分安定薬（抗躁薬）mood stabilizer (antimanic agents)・精神刺激薬

気分安定薬は、躁病や双極性障害における躁状態だけでなく、双極性障害のうつ状態やその再発・悪化の予防にも用いられる。カルバマゼピンやバルプロ酸ナトリウムはそもそも抗てんかん薬として使用されてきたが、気分安定薬としての効果ももつことが知られるようになった。

精神刺激薬は中枢神経刺激薬 (central nervous system stimulant) ともよばれ、ナルコレプシーの治療に用いられる。メチルフェニデート (リタリン) は抑うつ状態の改善や衝動性の抑制にも有効であるとされてきたが、依存性が形成されやすく乱用も社会問題化したため、わが国ではうつ病での適応は外され、同成分の徐放錠であるコンサータの適応は児童期の注意欠陥・多動性障害に限定されている。

分類	一般名	代表的な商品名	その他の商品名・備考
気分安定薬 (抗躁薬)	炭酸リチウム lithium carbonate	リーマス Limas	リチオマール Litiomal
	バルプロ酸ナトリウム sodium valproate	デパケン Depakene, セレンカ R Selenica-R	エスダブル Esdouble, エピレナート Epirenat, サノテン Sanoten, セボトボ ル Cebotval, セレブ Cereb, デパケン R Depaken-R, ハイセレニン Hyserenin, バルデケン R Baldeken-R, バルブラム R Valpram-R, バレリン Valerin
	カルバマゼピン carbamazepine	テグレトール Tegretol	テレスミン Telesmin, レキシシン Lexin
精神刺激薬	メチルフェニデート methylphenidate	リタリン Ritalin, コンサータ Concerta	
	ペモリン pemolin	ベタナミン Betanamin	
	モダフィニル modafinil	モディオダール Modiodal	

IV 抗精神病薬 antipsychotics (major tranquilizer)

抗精神病薬は幻覚・妄想などの症状の抑制に有効な薬剤であり、統合失調症を初めとした種々の精神障害の薬物療法において重要な役割を果たしている。クロルプロマジン、ハロペリドールを代表とする第一世代の抗精神病薬は、錐体外路症状や遅発性ジスキネジアなどの副作用も起こりやすく、現在ではドーパミンやセロトニンの受容体への選択性を高めた第二世代の抗精神病薬も用いられるようになってきた。

分類	一般名	代表的な商品名	その他の商品名・備考
フェノチアジン系	クロルプロマジン chlorpromazine	ウインタミン Wintermin, コントミン Contomin	
	レボメプロマジン levomepromazine	ヒルナミン Hirnamin, レボトミン Levotomin	ソフミン Sofmin, プロクラジン Procrazine, レボホルテ Levohalte
	フルフェナジン fluphenazine	フルメジン Flumezin	
	トリフロペラジン trifluoperazine	トリフロペラジン Trifluoperazine	
	ペルフェナジン perphenazine	ピーゼットシー-PZC	トリラホン Trilafon
	プロクロルペラジン prochlorperazine	ノバミン Novamin	
	プロペリシアジン propericiazine	ニューレプチル Neuleptil	イリヤキン Iriyakin

精神科薬物療法で用いる向精神薬のリスト

ブチロフェノン系	ハロペリドール haloperidol	セレネース Serenace	エセックチン Esextin, スイロリン Suirolin, ハロジャスト Halojust, ハロステン Halosten, ハロミドール Halomidol, ヨウペリドール Youperidol, リントン Linton, レモナミン Lemonamin
	ピバンペロン pipamperon	プロピタン Propitan	
	スピペロン spiperone	スピロピタン Spiropitan	
	チミペロン timiperone	トロペロン Tlopolon	セルマニル Celmanil
	モペロン moperone	ルバトレン Luvatren	
	ブロムペリドール bromperidol	インプロメン Impromen	プリペリドール Preperidol, プリンドリル Prindril, メルカイック Melkaick, ルナブロン Lunapron
ベンザミド系	スルピリド sulpiride	ドグマチール Dogmatyl	アビリット Abilit, クールスパン Coolspan, ケイチール Keityl, シーグル Seeglu, スカノーゼン Skanozen, ニチマール Nichimal, ピリカッブル Pyrikappl, ベタマック Betamac, マーゲノール Margenol, ミラドール Miradol, ヨウマチール Youmathyle
	スルトプリド sultopride	バルネチール Barnetil	スタドルフ Stadorf, バチール Batil
	ネモナプリド nemonapride	エミレーヌ Emilace	
第2世代抗精神病薬	リスペリドン risperidone	リスパダール Rispardal	
	ペロスピロン perospirone	ルーラン Lullan	
	ブロナンセリン blonanserin	ロナセン Lonasen	
	クエチアピン quetiapine	セロクエル Seroquel	
	オランザピン olanzapine	ジブレキサ Zyprexa	
	アリピプラゾール aripiprazole	エビリファイ Abilify	
その他	ゾテピン zotepine	ロドピン Lodopin	セトウス Setous, メジャピン Majorpin, ロシゾピロン Losizopilon
	ピモジド pimozide	オーラップ Orap	
	カルピプラミン carpipramine	デフェクトン Defekton	
	クロカブラミン clocapramine	クロフェクトン Clofekton	パドラセン Padrasen
	モサブラミン mosapramine	クレミン Cremin	
	オキシペルチン oxypertine	ホーリット Forit	
持続型抗精神病薬	デカン酸ハロペリドール haloperidol decanoate	ネオペリドール Neoperidol, ハロマンズ Halomonth	4週持効型
	デカン酸フルフェナジン fluphenazine decanoate	フルデカシン Fludecasin	(同上)

V 睡眠・鎮静薬 sedative-hypnotic agents

睡眠・鎮静薬ではバルビツール酸系の薬剤が早くから開発された。最近では、抗不安薬と同様に、ベンゾジアゼピン系の薬剤が多く用いられ、睡眠障害のタイプに応じて使い分けられる。毒性が低く、耐性や依存性も形成されにくい点で優れているが、筋弛緩作用などの理由で使いづらい場合（高齢者など）は、非ベンゾジアゼピン系の薬剤を用いる。

分類	一般名	代表的な商品名	その他の商品名・備考
ベンゾジアゼピン系	(超短時間型)	トリアゾラム triazolam	ハルシオン Halcion アサシオン Asasion, アスコマーナ Ascomana, カムリトン Camriton, トリアラム Trialam, ネスゲン Nesgen, ハラック Halrack, パルレオン Paruleon, ミンザイン Minzain
	(短時間型)	ミダゾラム midazolam	ドルミカム Dormicum
		ブロチゾラム brotizolam	レンドルミン Lendormin アムネゾン Amnezon, グッドミン Goodmin, シンベラミン Cinberamin, ゼストロミン Zestromin, ソレントミン Sorentmin, ネストローム Nestrom, ノクスタール Noxtal, ブロゾーム Brozom, ブロチゾラン Brotizolan, ユリモラン Eurimolan, レドルパー Ledolpar, レンデム Lendem, ロンフルマン Ronfleman
		リルマザホン rilamazafone	リスミー Rhythmy
		ロルメタゼパム lormetazepam	エバミール Evamyl ロラメット Loramet
	(中間型)	ニトラゼパム nitrazepam	ベンザリン Banzalin, ネルボン Nelbon チスボン Cysvon, ネルロレン Nelurolen, ノイクロニック Neuchlonic, ヒルスカミン Hirusukamin 最初のベンゾジアゼピン系睡眠薬
		ニメタゼパム nimetazepam	エリミン Erimin
		エスタゾラム estazolam	ユーロジン Eurodin
		フルニトラゼパム flunitrazepam	サイレース Silece, ロヒプノール Rohypnol ビビットエース Bibittoace, フルトラース Flutrace
		フルラゼパム flurazepam	ベノジール Benozil ダルメート Dalmate, ネルガート Nergart
	(長時間型)	ハロキサゾラム haloxazolam	ソメリン Somelin
		クアゼパム quazepam	ドラール Doral

精神科薬物療法で用いる向精神薬のリスト

非ベンゾジアゼピン系	ゾルピデム zolpidem	マイスリー Myslee	
	ゾピクロン zopiclone	アモバン Amoban	アモバンテス Amobantes, アントマイリン Antomylin, スローハイム Slowheim, ゾピクール Zopicool, ゾピバン Zopiban, ドパリール Dopareel, メトローム Metrom
バルビットール酸系	ペントバルビタール pentobarbital	ラボナ Ravona, ネンブタール Nembutal	
	セコバルビタール Secobarbital	アイオナールナトリウム Ional sodium	
	アモバルビタール amobarbital	イソミタール Isomytal	
	フェノバルビタール phenobarbital	フェノバル Phenobal	ルピアール Lupial, ワコビタール Wakobital
	バルビタール barbital	バルビタール Barbital	
合剤	(クロルプロマジン, プロメタジン promethazine, フェノバルビタール)	ベゲタミン Vegetamin A, B	プロメタジンは鎮静・抗パーキンソン作用を有する抗ヒスタミン剤 A 剤と B 剤は配合分量が異なる
その他	抱水クロラール cloral hydrate	エスクレ Escre	坐剤
	ブロムワレリル尿素 Bromovalerylurea	ブロバリン Brovarin	
	トリクロホスナトリウム Triclofos sodium	トリクロリール Tricloryl	
	臭化カルシウム CaBr ₂	ブロカル Brocal	
	デクスメデトミジン dexmedetomidine	プレセデックス Precedex	

VI その他

抗てんかん薬はてんかんの治療に用いるが、一部は既に挙げたように気分安定薬としても用いられている。脳循環・代謝改善薬は頭部外傷や脳梗塞・脳出血の後遺症である意識障害を初めとした種々の精神症状の治療に用いられ、抗認知症薬のアリセプトはアルツハイマー型認知症の進行を抑制する。抗酒剤はアルコールの代謝を抑えるため、アルコール依存症の治療に用いられる。

分類	一般名	代表的な商品名	その他の商品名・備考
抗てんかん薬	エトスクシミド ethosuximide	ザロンチン Zarontin	エPILEオプチマル Epileo petit mal
	ガバペンチン gabapentin	ガバペン Gabapen	
	カルバマゼピン carbamazepine	テグレトール Tegretol	テレスミン Telesmin, レキシシン Lexin

	クロナゼパム clonazepam	リボトリール Rivotril	ランドセン Landsen
	クロバザム clobazam	マイスタン Mistan	
	ゾニサミド zonisamide	エクセグラン Excegran	エクセミド Excemide
	バルプロ酸ナトリウム sodium valproate	デパケン Depakene, デパケン R Depaken-R, セレニカ R Selenica-R	エスダブル Esdouble, エピレナート Epirenat, サノテン Sanoten, セボトボ ル Cebotval, セレブ Cereb, ハイセレニ ン Hyserenin, バルデケン R Baldeken-R, バルブラム R Valpram-R, バレリン Valerin
	フェニトイン phenytoin	アレビアチン Aleviatin	ヒダントール Hidantol
	チアプリド tiapride	グラマリール Gramalil	クックール Cuckool, グリノラート Grinolart, チアプリム Tiaprim, チアラ リード Tialaread, チアリーール Tiaryl, ノイリラーク Neurelark, フルジサル Fluzisal, ボインリール Boinlil
脳循環・代謝改善薬	ニセルゴリン nicergolin	サアミオン Sermion	ウインクル Wincl, サルモシン Salumosin, サワチオン Sawachion, セルフアミン Selphamin, セレイド Cereid, ソクワール Socwarl, バソゴリン Vasogoline, ビエルゾン Bieluzon, ヒルブリン Hirubulin, マリレオン Marileon, レストマート Lestmart
	メクロフェノキサート meclofenoxate	ルシドリール Lucidril	メクロサート Meclosert
	ドネペジル donepezil	アリセプト Aricept	
薬 抗酒	シアナミド cyanamide	シアナマイド Cyanamide	
	ジスルフィラム disulfram	ノックビン Nocbin	

文献・関連サイト

相田信男 1998 病院の臨床心理士に望まれる薬物療法の知識 山中康裕・馬場禮子（編）病院の心理臨床 金子書房 Pp.28-40.

伊藤洸 1989 薬物療法の心理 小此木啓吾（編）新・医療心理学読本（からだの科学増刊）日本評論社 Pp.114-116.

水島裕（監修） 2008 今日のジェネリック医薬品 南江堂

名島潤慈 1983 心理臨床家と精神医学的知識 鐘幹八郎・名島潤慈（編）心理臨床家の手引 誠信書房 Pp.213-230.

名島潤慈 2000 心理臨床家に求められる精神医学的知識 鐘幹八郎・名島潤慈（編）新版心

理臨床家の手引 誠信書房 Pp.228-240.

山口登・酒井隆・宮本聖也・吉尾隆（編） 2008 こころの治療薬ハンドブック（第5版） 星和書店

精神科薬物療法の基礎知識 (<http://home.e08.itscom.net/psykoba/library4.html>)

医薬品医療機器情報提供ホームページ (<http://www.info.pmda.go.jp/>)